

## 地下外壁に山留め壁のH形鋼を活用

### 概要

H形鋼を構造主要素にする山留め壁と鉄筋コンクリート壁を一体化した地下外壁であり、建設資材の有効利用の考えに即した技術です。H形鋼と鉄筋コンクリート壁の一体化は、山留め壁H形鋼に溶接する頭付きスタッドボルトを介して図られます。地下外壁としての性能は日本建築総合試験所の建築技術性能証明に裏打ちされています。

### 特徴

建物の地下外壁をATOMiK合成壁にすることによって地下階の計画や地下工事の自由度が高まり、近接工事の問題解消にもつながります。適用は深さに関係なく建物の地下外壁、さらには片持ち状態の免震ピットの地下外壁にも有効です。

次のような特徴を有しています。

常時の土水圧を負担する合成地下壁です。

鉄筋コンクリート外壁の壁厚さを薄くすることができます。

それによって地下階利用空間の拡大が図れます。

また、地下工事の際の敷地境界への近接度が緩和できます。

山留め壁の種類として、地下水位が浅い場合に用いるソイルセメント壁、地下水位が深い場合に用いる親杭横矢板壁に適用できます。

### 適用物件

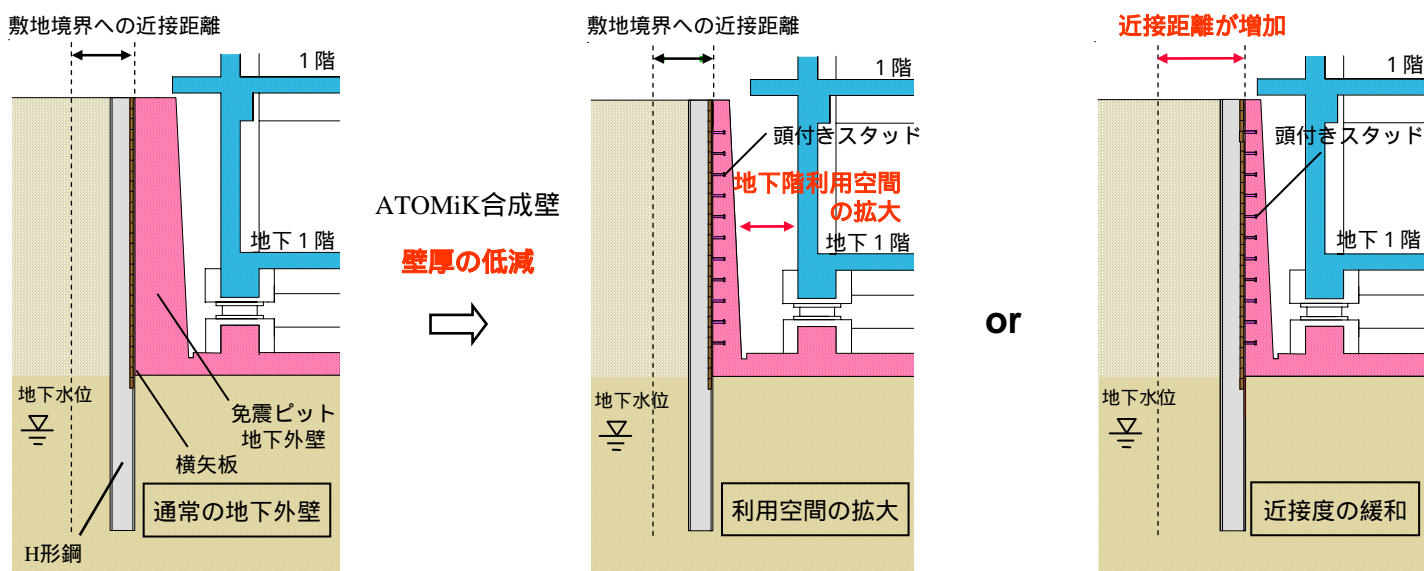
工事名：(仮称)ウィンベルプラザ白金新築工事

建物規模：地下2階地上13階

山留め壁：ソイルセメント柱列壁



スタッドの溶接状況



免震ピット地下外壁への適用例

本技術は、新井組・大木建設・東洋建設・三菱建設との共同研究により開発したものです。

このリーフレットは再生紙を使用しています。

関連資料 ...ATOMiK合成壁設計施工指針

熊谷組技術研究報告No.61(2002)投稿中